

短 報

富山県におけるホウネンエビの初記録*

吉岡 翼

富山市科学博物館

939-8084 富山市西中野町1-8-31

**First record of the fairy shrimp
Branchinella kugenumaensis (Crustacea:
Anostraca) from Toyama Prefecture, Japan**

Tasuku Yoshioka

Toyama Science Museum

1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama-shi,

Toyama 939-8084, Japan

はじめに

本邦の無甲目（ホウネンエビ類）は人為分布が疑われる *Artemia* spp. を除くと、関東以西の水田を中心に生息するホウネンエビ *Branchinella kugenumaensis* および北海道と青森県の融雪プールから報告されているキタホウネンエビ *Eubranchipus uchidai* の2種が知られている。富山近県では新潟県（富樫, 2005）、福井県（山田, 1999; 山口ほか, 2008）、岐阜県および長野県（Grygier, 2005）からホウネンエビが知られているが、富山県ではこれまで未報告であった。今回、富山市科学博物館友の会会員の安吉佐知恵氏より寄せられた目撃情報をもとに調査した結果、ホウネンエビの生息を確認できたのでここに報告する。

方法

2014年6月16日、目撃情報のあった高岡市木津の休耕田と周囲30筆の水田（湛水した休耕田含む）を対象に調査を行った。調査では畔から目視によって生息の有無を確認し、網目1mmのハンドネットで採集した。得られた個体は4%ホルマリンで固定後70%エタノールに移し、鏡下で同定した。また、調査中には近隣の住民および耕作者（計5名）に水田の状況とホウネンエビの目撃について聞き取りを行った。

結果と考察

目撃情報が寄せられた休耕田1筆のみでホウネンエビを確認することができた（図1）。本田の湛水深は3cm程度で水は濁っており、水面近くまで浮上してきた個体しか目視で確認できなかったが、出現しやすい場所で無作為にネットを曳いても採取できず、生息密度は比較的低いと思われた。調査時に5個体採集したほか、後日安吉氏が採集した3個体も確認したが、いずれも雌であった。体長は23.5 ~ 25.9 mmで、尾脚を含めた全長は30 mmに達す。なお、本地域の慣行田は5月上旬に田植えが行われており、本田は例年周囲の水田とほぼ同じ期間湛水している。目撃は5月中旬以降だが、湛水後直ちに孵化したとすると、孵化後1ヶ月以上が経過していることになる。

ホウネンエビはしばしば付属肢に緑藻を伴い、特に成熟した雄において体色が鮮やかな緑色に見えることがあるが（山田, 1999; 園山, 2004）、今回緑色個体は確認されず、目撃情報もなかった。これは、水が濁り緑藻の繁殖が抑えられていたことや成熟雌が目立っていたことによると考えられる。

聞き取りでは2名が存在に気づいていたが、うち1名

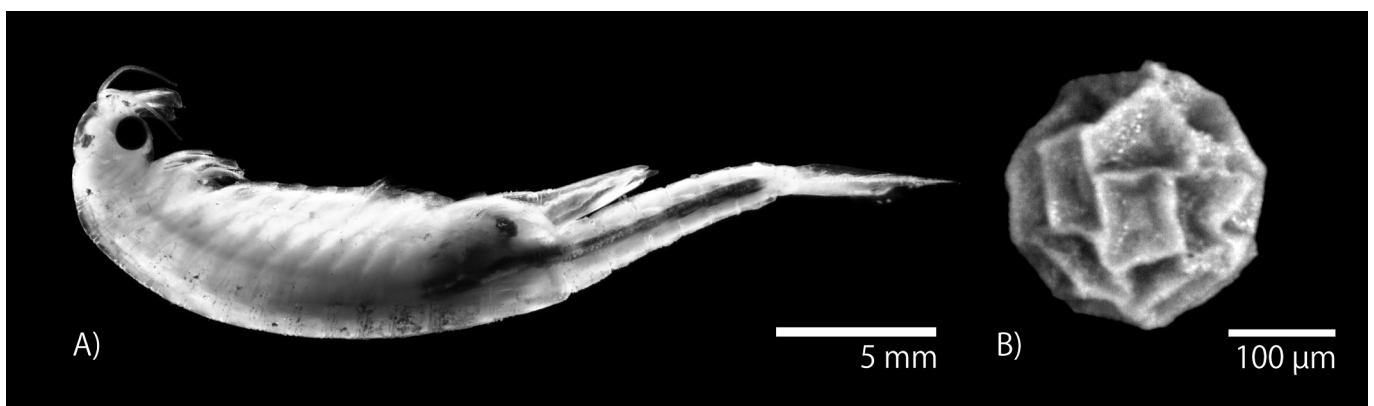


図1 高岡市の休耕田から採集されたホウネンエビ。A, 雌個体とB, 卵。

* 富山市科学博物館研究業績第481号

は「尾の赤いメダカ」として認識していた。5月下旬には湛水深5 cm程度で水の濁りも弱く、より多くの個体を見ることができたとのこと。また、具体的な年数は不明だが、過去数年間にわたって同じ休耕田で目撃されていた。

ホウネンエビを除く大型鰓脚類については県東部を中心にカイエビ類が知られているが（布村, 2006, 2010; 吉岡, 2014）、生息分布の全容は不明であり、大型鰓脚類全体について情報の蓄積が望まれる。また、今回ホウネンエビの見つかった休耕田は水田地帯の一角にあるが、都市計画による住居地域に面しており（高岡市都市整備部都市課, 2010）、2方を住宅に囲まれている。今後開発が進めば、生息地が失われる可能性もある。

謝辞

貴重な情報を寄せていただいた安吉氏および聞き取りに協力していただいた皆様に感謝いたします。

文献

- Grygier, M.J., 2005. 大和川集水域におけるカブトエビ・カイエビ類の分布と生態. 自然史研究, 3(4): 51-54.
- 布村 昇, 2006. 昆虫を除く無脊椎動物部門 (底生動物). *In* 富山県魚津農地森務事務所・富山県水生生物研究会・水土里ネット富山(編)黒部川合口流域地区生態系調査報告書 (平成16年度, 17年度調査). 富山県魚津農地森務事務所, 341pp. : 140-188.

- 布村 昇, 2010. 富山市科学博物館収蔵目録 第23号, 甲殻類 I (等脚類を除く全甲殻類), 富山市科学博物館, 84pp.
- 園山 博, 2004. ホウネンエビの胸肢に付着する藻類. 遺伝, 58(6): 81-83.
- 高岡市都市整備部都市計画課, 2010. 高岡市都市計画総括図.
- 富樫繁春, 2005. 新潟県魚沼地方の水田に発生したホウネンエビ. 新潟県生物教育研究会誌, (40): 13-16.
- 山田知恵子, 1999. ホウネンエビの生活史—特に世代数および発育に伴う体色の変化について—. 南紀生物, 41(2): 149-154.
- 山口 修・牧野憲昭・今村 彰・畠山真由美, 2008. 南西諸島および兵庫県の水田におけるカブトエビを主とする大型鰓脚類の分布特徴. 兵庫教育大学研究紀要, 32: 91-98.
- 吉岡 翼, 2014. カイエビ—田んぼのエビから恐竜時代に思いを馳せて—. とやまと自然, 37(1): 5-8.